第 2016-19 号

恵みと真理のニュース

2016 年 5 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　未熟で高慢だった私が主の恵で変化され魂が救われ真の平安と幸せを享受するようになりました

親と親戚がみんな儒教の慣習を従う家庭で４男3女の兄の二番目で生まれました。学校を卒業をしてソウルに来て職場を通い職場の先輩から誘われて断ることなく徹夜礼拝に何回か参加しました。しかし、根深い儒教思想で神様に対する信仰が出来ませんでした。そうするなかで結婚をしてアンヤンで住むようになりました。

子供を妊娠して階下に住む人が恵と真理のニュースをもって私の家に来ました。何回礼拝に参席した経験もありチョヨンモク牧師が身近に感じられて恵と真理のニュースだけはもらいました。おばさんは週一回私の家に来て恵と真理のニュースを配って祈ってくださいました。 その方が教会に行こうと強く勧めたときには仕方なく今は妊娠中だから出産後から考えてみますと言いました。しかし、出産後には子供がもっと大きくなったら行くと後日に譲りました。そして赤ちゃんが6ヶ月になるともう言い訳がなくなって旦那のためだと言い訳をし教会には行けなく水曜日だけ参席するとしました。

一ヶ月間水曜礼拝だけ参席する中で旦那の仕事のことでアンヤンの近くに引越しするようになりました。伝道した執事が新しい住所を 教えてほしいといったが、もう一人でも教会をよく訪ねて行けるからといって教えませんでした。引越した後、教会に行こうと誘う人がいなくて心が楽になりました。

そのごろ会社のことだと寝ていてもすぐ起き上がった旦那が何の理由か急に会社を辞めると言いました。会社から来る電話も受けませんでした。ぱっと気がつきました。その状況で水曜礼拝で聴いた御言葉の中で“サムエルは言った。「主が喜ばれるのは／焼き尽くす献げ物やいけにえであろうか。むしろ、主の御声に聞き従うことではないか。見よ、聞き従うことはいけにえにまさり／耳を傾けることは雄羊の脂肪にまさる。”（サムエル記第一15：22）御言葉を通して悔い改めました。

“私が続けて不従順したから神様は旦那を通して悟らせて信仰をあたえてくださのだ。”と思いました。その日が水曜日だから水曜礼拝に行って“主よ、御言葉に従順するので旦那の心を変えて再び会社に行くようにしてください。祈りました。礼拝が終わって交通の奉仕をする方に私の家に行くバスを聞きました。そのバスを乗って静かな所で座っている私に隣りの席に座っている人が嬉しく挨拶をかけてくれました。私はその人の親切がうっとうしくて、最近引越ししたけど静かに一人で教会に通うとしました。しかし、彼女は私が住んでいる所を聞いて私と同じ区域に住んでいる首区域長を紹介してくれました。

首区域長は嬉しく挨拶をしてバスから下りる時に私より早く下りて私のかばんを取って家までついて来ました。

その後、私は“礼拝を熱心に捧げ御言葉に従順すると大きい福を受けるだと聞いたので”首区域長が来るといわれる礼拝には全部ついて行きました。以前と違って能動的に礼拝をささげると当会長の牧師が伝える説教は恵でした。御言葉の恵と聖霊の働きで臨在して罪を贖ってくださったイエス様の愛が信じられました。初めて信実に神様の前で悔い改めました。イエス様の救いの恵がどれほど感謝なのか、誰よりも大きい声で感謝し賛美して御言葉の恵を愛して礼拝を時間を待ち望みました。赤ちゃんが寝ると聖書を開いて読むと時間が経つのも知らずに御言葉を読みました。熱心に伝道する首区域長がうらやましくて恵と真理ニュースをもって隣りの家に行きました。聖書を習うため平信徒の聖書学校にも入学しました。主の中で日々、楽しくて幸せでした。

このように私が神様の恵みの中で生きる間、旦那は世がくれる楽しみに落ちて私を苦しめました。しかし、今は問題にならないです。“私の能力の神様が共にいてくださり平安と助けてくださるが、旦那は大変でも委ねるところもなくてかわいそうでした。かわいそうな旦那のため慈しむ心を持って旦那のため祈りました。教区長が児童区域長の職分を勧めたとき嬉しくて感謝の心で従順しました。今まで私が教会生活をするように導いてくださった区域長の愛にも感謝しました。成人区域長の職分をくださるときにも喜んで受け耐えました。

そのごろ私が風邪気味があって三日間薬を飲みましたが症状が続いて下血をしたので病院に行きました。妊娠でした。一人をよく育つ計画でしたが思わなく妊娠しました。それも知らなくて風邪薬を飲んでしまってのです。医師はどうしたら良いのか話さないとして、下血が続いたのでよくない決心をしました。

そんな私に教区長がすぐ決定しなくてまず神様に祈ろうとしました。その日から21日間ダニエル祈りをしました。　祈りながらも不安でしたが最後の日になって“神様がくださったプレゼントだから子供を産みます。神様、赤ちゃんが無事に何の問題なく生まれるように祈りました。すると、嘘のように下血が止まりました。その後つわりもなく健康な娘を産みました。どれだけ貴重で愛しいのか、今もその時を考えると神様に対する感謝で充満になります。

旦那の離職でブチョンで引越ししました。当時ブチョンには聖殿がなかった時でシホンまで何回バスを乗り返して通いました。教会が遠くて教区長、勧士、首区域長達が苦労してくださって教会に通うことが出来ました。旦那のため苦しい時間もありましたが聖霊に慰められ回復して旦那も教会に来るようになりました。神様の恵みが感謝で教会学校の教師で奉仕を始めました。主日学校にいる教会にいる時間が長くなって旦那の反対が酷かったですがそれにもかまわず祈りながら奉仕しました。

旦那がタクシー運転を始めて生活が苦しくなって私も職場生活をするようになりました。以前は礼拝時間に居眠りする人を見ると“この大事な時間にどう居眠りするのか。”ど思いましたが毎日12時間づつ仕事をして教会に来

椅子がまるでベットのようにやわらかくて居眠りしました。それで神様に祈りました。“私がいくら疲れても礼拝の時間には居眠りしないように聖徒に見えるには疲れないようにしてください。”すると驚くほど健康を与えて下さり教会の奉仕をするまで疲れないようにしてくださいました。

家庭と職場にいくら難しくて大変なことがあっても主日に滝のように与えて下さる恵で希望の中で生きるようになりました。そして、私の能力の足りなさと大変な環境でも主は二人の子供達を健康できれいに育てくださいました。今幼小学部で奉仕する子供達を見るとその愛が限りないので主に感謝と賛美をします。私は職場を辞めて今は孫の世話をして平日でも午前は教会で様々な奉仕をしています。教会中心の生活をして幸せな日々を送るように神様に感謝します。信仰生活に揺れが酷い旦那が強い信仰を持っていつも感謝し神様に栄光を捧げるように切に祈ります。

［信仰コラム］　いつまでも同一でおられるキリスト

＂イエス.キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。＂（ヘブライ書１３：８）

よく変わって信じられない人を相手にすると大変で不安です。その反面、変わりのない人を相手にすると安心して楽しいです。＂イエス.キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。＂このお言葉は私達の心に安堵感が満ちるようにしてくれます。このお言葉は＂神様は、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。＂というお言葉と違いありません。このような知識と信仰で本文のお言葉を調べてみましょう。

第一、神様の愛はいつまでも同一であります。
神様が人の生存に必要な全てのことをお作りなさった後、人をお造りなさい全てのことを享受しながら生きるようにしてくださいました。従って、この全てのことと季節の変化、日夜の変化まで人生に向いた神様の愛を表しています。人が経験する最も驚くべきで大きな愛は罪人を救うために彼の独り子を賜った神様の愛です。言い換えると、この世にお越しになり罪人の罪を贖われたイエスキリストの中に表われた神様の愛だと呼ぶのが適切です。人間の理解を超越する驚くべきな愛です。誰でもキリストイエスの中に表れた神様の愛を感激した心で受け入れさえすれば、救いを得るようになります。

第二、神様の恵みはいつまでも同一であります。
聖書の用語の中で恵みという言葉がないと福音という言葉もないはずです。救いの福音は恵みによるからです。＂神様の恵み＂という言葉と＂イエスキリストの恵み＂という言葉は同じ意味で使われる言葉です。人が必ず知るべきで経験すべきのことはイエスキリストの恵みであります。神様の恵みを指してテトスへの手紙 2 章 11 節に＂すべての人を救う神の恵み＂だとしました。罪の許しを受け正しくなり、神様の子になり、神々しくなって聖徒と呼ばれるようになり、天国で生きるようになり、蘇った体を持つようになることが救いの内容の中で核心的なことです。誰も、何でも、キリストの中にある神様の恵みを変えることはできません。イエスキリストの中だけで得るようになる救いの恵みは永遠です。

第三、神様の真実はいつまでも同一であります。
神様の真実は予言者を通じて予言なさったお言葉の成就を通じて明らかに証拠されました。イスラエルに対する予言とイスラエルと関連した国々に関する予言が正確に叶えられました。最も驚くべきで感動的な予言は救い主に対することです。これは聖書予言の核心です。イエスキリストの誕生、生涯、死、復活、昇天が予言された通りに叶えられました。以外にいきなりできたことは一つもありません。神様は真実であります。神様には偽りがありません。従って、神様のお言葉を無視して不信すると必ず悲惨になり不幸になります。ノア時代の人々は神様がノアを通じて与えてくださった警告のメッセージを無視しあざ笑った結果、洪水審判で滅びられました。神様の警告の冗談に扱ったロトの婿達は結局、硫黄の火で滅びられました。カナンを探った 10 人の回し者は神様の言約を無視して民を落胆させる報告をした結果で神様の懲罰を受けて死に、民達も神様の約束を無視してエジプトに帰ろうとしたので広野で死にました。イエス様の再臨、聖徒達の復活と携挙、千年王国、新たなエルサレムに対する約束も一点一画も違わず全て叶えられるでしょう。私達が自分が直面した都合と問題より神様が言約なさったお言葉に対する自分の態度をより重要視すべきです。
キリストの中に表れた神様の愛と神様の恵み、神様の真実はいつまでも同一です。皆さんは、このような知識と信仰を固く持ってください。そして、このような信仰を行いで現しながら生きてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

新しい命そして豊富な命

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

新約聖書の福音書にはイエス様が行った奇跡がたくさん記録されています。 欠乏した状態が豊かな状態に変化された事件があります。 その中に二つの事件をよく見ます。 水がぶどう酒になってお祝いの家に集まった祝い客が皆が楽しく飲むようになった事件と五つの大麦のパンと魚二匹として幾多の人々が腹一杯食べるのに残ったのが１２かごにいっぱいになった事件です。 欠乏を願う人はいないです。 誰もすべての事にいつも豊かなのを願います。 だから欠乏した状態が豊かな状態になる事件の記録をよく見る必要があります。 この奇蹟の事件には多様で神霊な教訓がたくさんあります。

先ず、水がぶどう酒になった事件をよく見ます。

この事件の記録を見れば “三日目にガリラヤのカナに婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなってしまいました」。” と始まります。 日付と場所を具体的に明示することで時間と空間の中で発生した歴史的事件であるということを証明しています。 ユダヤ人の婚礼宴は伝統的に普通一週刊の間に続きました。 イエス様が招かれて来た婚礼宴家には連日お客様に混んだし、宴追い終わりになっては案外多いお客様が押しかけたようです。 そしてついにぶどう酒かめが床がついてしまいました。 イスラエルでは水の事情が良くないからぶどう酒が日常的な飲み物として使われました。 それだけではなく宴の雰囲気を楽しくしてくれるのがぶどう酒でした。 もしお祝いの家でぶどう酒が足りなくなれば花婿と花嫁に大きな恥になります。ぶどう酒が床がついてしまったことをマリアが先に分かるようになりました。 マリアはイエス様にこんな事情を知らせました。 マリアはイエス様が聖霊に孕胎されて世の中へいらっしゃった神様の独り子で救世主であることが分かりました。 だからマリアはイエス様が婚礼宴家の困境を解決することができるということを信じて、当面した都合と事情をイエス様に知らせて助けを求めました。
マリアの要請を受けたイエス様が “「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。” と答えました。 マリアはイエス様の返事を充分に理解することはできなかったが ただイエス様の愛と能力を信じてしもべに “「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。” その念をおしておきました。 やや過ぎてイエス様が彼らに “ユダヤ人のきよめのならわしに従って、それぞれ四、五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあった。イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。すると、彼らは持って行った。料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかったので、（水をくんだ僕たちは知っていた）花婿を呼んで 言った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったころにわるいのを出すものだ。それだのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」。 味が本当に良かったです。 すると宴雰囲気がもっと高まりました。 カナの婚礼宴家でイエス様を招待したから欠乏した状態の豊かな状態になる奇蹟を経験するようになりました。
この奇蹟の事件が与えるメッセージの中に除くことができないことがあります。 水がぶどう酒になる質的な変化です。 イエス様だけが私たちの人生に質的な変化が起きさせます。 イエス様を迎接すれば人生の質が変化されます。 霊魂と生と肉体に体験される質的変化です。 魂が生まれかわるようになります。 義人になって聖徒になって神様の子になって天国の市民になります。 この世で主を仕えて行うすべてのことが永遠な意味を持つようになります。 復活して変化された身を持つようになります。

次は、五つの大麦のパンと魚二匹として幾多の群衆が満腹に食べるようになった事件をよく見ます。

イエス様が行った奇跡の中に五つの大麦のパンと魚二匹で五千人を食べさせた事件は マタイによる福音書 、マルコによる福音書 、ルカによる福音書 、ヨハネによる福音書 4 ヶ所に皆記録されています。4 ヶ所に記録された内容を総合してよく見ればその現場が目に浮ぶように見えます。 春の光がはっきりと現れるある日、巡回伝道を終えて帰って来た弟子がイエス様に自分たちが行ったことと教えたことを一つ一つ報告しました。 イエス様が休息を取ろうと弟子とともに船に乗ってカペナウムでしずかな所を向けて離れ去りました。 イエス様の連中の到着した所はカリラヤ海の東北にあるベッセタ村の近く野原でした。カペナウムからペセダまで 6 キロメートルが超える距離です。 ところで 野原には多くの人々が前もってに到着していました。 イエス様が大きい群れを見てまるで牧者ない羊のように可愛想に思いました。イエス様が高い地帯に上がって座ったら群れが集まって来ました。 イエス様は群れに神様の国の仕事を教えてその中にいる病んだ者を癒しました。
人々はイエス様のお話に凝って時間が経つとは思わなかったです。 いつのまにか日が暮れていました。 あの時イエス様がピリポに “私たちがどこでパンを買ってこの人々を食べるようにするのか?” その質問しました。 ピリポが答えるのを “各人で少しずつ受けさせても二白デナリオン分のパンでも不足だろう” としました。当時労動者の一日賃銭が一デナリオンでした。 二白デナリオンは一人の労動者が 200 日を働いた賃銭に当たります。 ピリポの返事は算術的には申し分ないが信仰的には留年です。 イエス様が群れを奇跡的な方法で食べさせることを決心して質問したということをピリポが見抜かなければなりません。
イエス様が弟子におっしゃるのを “君達にパンがいくつあるのか?” としました。 しばらく後アンドレがイエス様に報告するのを “「ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。” としました。 イエス様はアンドレに “それを私に持って来なさい。” しました。
イエス様が子供が持ったものを “私に持って来なさい。” したがこれは苛酷な要求ではなかったです。 神様が要求することは神様の必要を満たさせようとするのではなく私たちの欠乏を解決してくれようとするのです。 アンドレは子供が提供した 五つの大麦のパンと魚二匹をイエス様に差し上げました。 イエス様が人々を百人あるいは五十人ずつ集まらせるように弟子に指示しました。
イエス様のこのような指示は人々が食事をするための姿勢を取りそろえるようにするのでした。 やっと弟子はイエス様がどんなすごい事をしようと決心したことを悟りました。 人々が芝の上に集まりました。 女と子供を除いた大人男たち数字だけでも五千名もなりました。 群れの食べるパンがないのにイエス様は弟子にパンを食べるための準備するように指示しました。
イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。 驚くべきことがこのような伝達が続いたし ついに群れが皆が腹一杯 食べました。 残った切れをおさめて捨てるのがないようにしなさいとイエス様が弟子に指示しました「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」そこで彼らが集めると、五つの大麦のパンを食べて残ったパンくずは、十二のかごにいっぱいになった。 今日の科学教育を受けた知性人はこんな奇蹟の事件を額面そのまま信じることはできないと言う人々がいます。 しかし無いから有るを創造した神様に不可能な事は全然ないです。 “神様は全能な創造主です。” これがすべての奇蹟の事件に対する答です。 今までよく見た二つの事件は皆が欠乏を豊饒に変化させた事件です。ところで差異はガナの婚礼宴家で行った奇蹟は質的な変化があったし、ベッセダの野原で行った奇蹟は量的な変化がありました。 この二つの対照的な事件はすべてのクリスチャンが経験するようになる変化を明らかに現わしています。
イエス様がおっしゃるのを “盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。”（ヨハネによる福音書 10:10）としました。 イエス様が私たちにくださる命は生まれかわることで得るようになる命です。 新しい命です。 親から生まれる時から得るようになった命とは質的に違う命です。 イエス様を信じれば宗教人になるのではなく新しい命を得るのです。 新しい命はまた豊富な命です。 永遠に天国で住むようになる命です。 これを永生だと呼びます。 これは私たちの魂に起きた質的な変化と量的な変化です。
愛する皆さんは水がぶどう酒になって、五つの大麦のパンと魚二匹から五千人が腹一杯食べる体験よりもっと不思議で驚くべきな質的な変化と量的な変化が皆さんの魂に起きたことを悟って喜びと感謝が常に充満するように願いします。